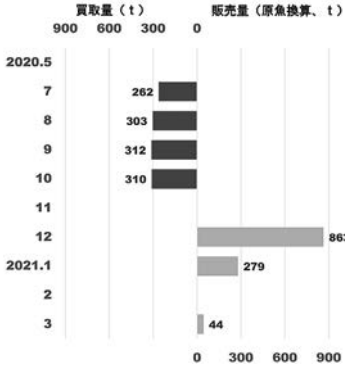


対象魚種	買取数量	買取金額	平準化事業助成額	助成後事業収支
養殖ホタテガイ	1,190トン	302百万円	89百万円	損失額4百万円



□コロナ禍で水揚げが停滞、生産途絶の危機に直面
 ・主要販売先の寿司店需要が喪失、浜値は4割減
 ・生産途絶によるマーケット喪失に漁業者が強い不安
 □平準化事業による買取によって水揚げを継続
 ・共販を通じた買取で県下全体の産地を支援
 ・加工業者との協力体制を構築し玉冷製品（冷凍貝柱）を製造・保管
 □需要が回復した回転ずしチェーンを中心に販売
 ・次漁期への生産継続を可能とした上に、玉冷製品の新規販路開拓にも成功

改善の兆しを未来へ

連載 3

平準化事業と魚価安定



公益財団法人 水産物安定供給推進機構専務 坂井眞樹

ホタテ流通の停滞

東日本大震災以降、水揚げを着実に回復させてきた宮城県産ホタテの主な出荷形態は、生玉（生鮮状態の貝柱製品）であり、寿司店が主な需要先だった。ところが、水揚げ開始時期の2020年4月ごろに、折あしく新型コロナウイルスの感染が拡大して外食向けの流通が滞り始め、緊急事態宣言が出されると荷動きが一層悪化し、各浜の水揚げは例年の

半分以下、共販価格も4割減と大幅に落ち込んだ。水揚げができず、漁場が空かないため、例年秋に実施される種入れが今年ではできないのではないかと、生産途絶によってマーケットを失うのではないかと、強い不安感が漁業者の間にも広がった。

価格を採用している。価格の透明性、公平性が、事業の実施について短期間で浜の漁業者や買受人の理解を得ることに繋がった。

玉冷でピンチ脱却へ

JFみやぎでは、共同にも、玉冷加工という新たな試みによって新規販路も開拓できた。回転寿司チェーンは今後も有力な販売先となる可能性が高く、まさにピンチをチャンスに変えることができた。また、ホタテ加工に従事する季節労働者を継続雇用できたことも、

ほかの加工業種や飲食店などでコロナの影響で解雇した従業員が戻らず事業を再開できないケースが相次いだことを考えれば、危機を打開する大きな要因となった。

平準化拡充を要望

JFみやぎの取り組み

JFみやぎでは、平準化事業がなければ多くの廃業者が出る可能性があった、事業のおかげで加工業者も計画的な操業が可能となり大きな成果があったとして、「対象魚種や予算を拡大し常に備えておいて必要な時に必要な額を支出できるように事業」に拡充することを強く要望している。

生産途絶の危機を打開

このままでは廃業する漁業者が続出しかねないとの強い危機感のもとに、JFみやぎが平準化事業の実施主体となって、ホタテを買取数量を基に、生産者と買受人間の値決めによって決定され、JFみやぎが介入することはない。コロナ対応平準化事業を活用してJFみやぎが買い取りを行う場合にも、組合が値決めに関与することはない。コロナ禍の影響は続くが、玉冷製

（つづく）随時掲載